第三講　演習問題（3）

一　つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ（設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある）。

昔者田*成子遊於海而楽之。号令諸大夫曰、言帰者死。顔*涿聚曰、君遊海而楽之、[1]奈人有図国者何、君［　A　］楽之、将安得。田成子曰、寡*人布令曰言帰者死、今子犯寡人之令。[2]援戈将撃之。顔涿聚曰、今君雖殺臣之身以三之可也、臣言為国、非為身也。延頸而前曰、君撃之矣。君乃釈戈趣駕而帰。至三日、而聞国人有謀不内田成子者矣。田成子[3]所以遂有斉国者、顔涿聚之力也。

（『韓非子』より。文章を一部省略した）

【注】
＊田成子　紀元前五世紀前半の人。田氏は、代々斉の国の大臣の家柄。
＊顔涿聚　賢者と評された人物。
＊寡人　王侯の自称。徳の少ない人という謙遜の意。

問一　傍線部1「奈人有図国者何」について、つぎの（一）（二）の問いに答えよ。

（一）書き下し文は、「人の国を図る者有るを奈何せん」であるが、これに従って返り点をつけよ。

奈 人 有 図 国 者 何

（二）書き下し文の解釈を、つぎの形式に従って、□に入るように二十字以内で記せ。ただし、読点や記号も一字と数える。

国を□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□。

問二　空欄 A に入る語として最も適切なものをつぎの中から選べ。

ア 故　イ 非　ウ 不　エ 雖　オ 未

問三　傍線部２「援戈将撃之」のひらがなのみの書き下し文として最も適切なものをつぎの中から選べ。

ア　ほことしやうをひきてこれをうつ
イ　ほこをひきはたこれをうたん
ウ　ほこをひきまさにこれをうたんとす
エ　ほこをひきもつてこれをうつ
オ　ほこをひきてほとんどこれをうつ

問四　傍線部３「所㆔以遂有㆓斉国㆒」についての作者の考えとして、最も適切なものをつぎの中から選べ。

ア　斉の国が成立することができたのは、顔涿聚の捨て身の攻撃のおかげである。
イ　田成子が斉の国の実権を掌握できたのは、顔涿聚が身を賭して諫めたからである。
ウ　田成子が斉の国に入らずに命が助かったのは、顔涿聚が危険を予言したからである。
エ　田成子が斉の国を領土に持つことができたのは、顔涿聚が命を賭けた策謀の成果である。
オ　斉の国に謀反が起きなかったのは、顔涿聚が命を犠牲にしてくれたからである。

二　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。ただし出題の都合で送り仮名の一部を省略してある。

君独リ不レ聞カ二蒯（くわい）人（ひと）之泣クヲ一乎。昔蒯人為レシテ商ヒヲ而売ル二氷ヲ于市ニ一。客有リ二苦レシム熱ニ者一。将レニ買レハント之ヲ。蒯人自ラ<u>A 以レ得レ時</u>、欲ス三邀（むか）フルニレ客ヲ以テセント二数倍之利ヲ一。客<u>a 於レ是</u>怒リテ而去ル。俄（にはか）ニシテ而其ノ氷亦タ散ズ。故ニ蒯人進メントスルモ且ツ不レ得レ氷ヲ、<u>B 二者</u>倶（とも）ニ亡（うしな）ヒ、自ラ泣キテ而去ル。今君坐シ二青雲之中ニ一、平二‐衡ス天下ヲ一。天下之士皆欲レス附（つ）カント矣。此レ亦タ君売レル氷ヲ之秋（とき）ニシテ而士買レフ氷ヲ之際ナリ。有レバ利則チ合ス、<u>C 豈宜レ失レ時</u>。苟（も）シ使シ君強（し）ヒテ自ラ遅（ち）迴（くわい）シテ至ラバ二氷ノ散ズルニ一、則チ君尚ホ欲スルモレ開カントレ口ヲ、其ノ事<u>b 焉得哉</u>。<u>D 願ハクハ少シク図レレヲ之</u>。無カレレ為スニ二蒯人之事ヲ一也。

（五代・王定保『唐摭言（とうせきげん）』巻一二）

（注）○蒯＝古代の地名。今の河南省洛陽市西南の地。
○其氷亦散＝氷も解け出した。

○坐青雲之中、平衡天下＝高い位に就いて天下を治める。
○遅迴＝ぐずぐずする。迷いためらう。

（一）　傍線の部分Aの意味として正しいものを、次のア～エの中から一つ選べ。

ア　ゆっくり時間をかけた方が得だと思って
イ　時代の要求に合うようにしたいと思って
ウ　ちょうどいい時間帯を待ちたいと思って
エ　いまこそちょうどいい売り時だと思って

（二）　二重傍線の部分a・bの読みをすべて平仮名で記せ。現代仮名遣いでもよい。

a＝

b＝

（三）　傍線の部分Bは何と何を指すか。文中の語で答えよ。

(四)　傍線の部分Cを書き下し文にせよ。ただしすべて平仮名で記すこと。現代仮名遣いでもよい。

(五)　傍線の部分Dは具体的にはどうせよというのか。三〇字以内（句読点を含む）で記せ。

三　次の漢文は、江戸時代中期の儒学者である江村北海が、玉井という地に建てた別荘の風情を詠んだ藤原為時の漢詩について解説したものである。本文と注をよく読んで、以下の各問に答えなさい。なお、設問の都合により一部、訓点を省略したところがある。

五(注1)品為時、題(スル)二玉井(ノ)別荘(ニ)一 [A]、

玉井(ノ)佳名世(ニ)所(らル)レ称(セ)
松(注2)楹半(バ)按(ズ)碧岩(ノ)稜
山雲繞(めぐリテ)レ屋(ヲ)①応(ニ)レ褰(かかグ)レ幔(まくヲ)
潤(注3)月②臨(ミテ)レ窓(ニ)欲(ス)レ代(ハラント)レ燈(ニ)
梅吐(キテ)二寒花(ヲ)一朝(ニ)見(ル)レ [1](ヲ)
水収(メテ)二幽響(ヲ)一夜(ニ)知(ル)レ [2](ルヲ)
③池辺何物(カ)相(ヒ)尋(ネ)到(ル)
雁(ハ)作(なリ)二来賓(ト)一鶴(ハ)作(ル)レ朋(ト)

④雖乏声(注4)格(注5)、首尾匀称、足称合(注6)作。為時(ガ)女(むすめ) [B] 以(テ)レ著(ハスヲ)二源(注7)語(ヲ)一称(セラル)二于世(ニ)一。

（注）
1　五品(ごほん)――為時の位階のこと。
2　松楹(しやうよう)半按碧岩稜――松の柱は碧岩の角を押さえるように立てた。

3　潤月――河川の上に輝く月の光。　4　声格――格調。
5　首尾匀(いん)称――最初から最後までうまく照応している。
6　合作――合格に価する作品。　7　源語――『源氏物語』。

問一　空欄[A]に入る適切な語を、ア〜エの中から一つ選びなさい。

ア　五絶　イ　五律　ウ　七絶　エ　七律

問二　この詩では第何句と第何句が対句になっているか、全て記しなさい。

問三　傍線部①「応褰幔」を全て平仮名で書き下しなさい。

問四　傍線部②「潤月臨窓欲代燈」を現代語訳しなさい。

問五　空欄［1］・［2］に入る漢字の組合せとして適切なものを、ア〜エの中から一つ選びなさい。

ア　会・去　　イ　雪・氷　　ウ　桜・散　　エ　鳥・眠

問六　傍線部③「池辺何物相尋到」とあるが、池辺を尋ねた（訪ねた）「物」を、詩の中から二つ抜き出しなさい。

問七　傍線部④は「声格に乏しと雖も、首尾匀称、合作と称するに足る。」と読む。これに従って次の白文に訓点をほどこしなさい。

雖乏声格、首尾匀称、足称合作。

問八　空欄［B］に入る人名を考えて、漢字で答えなさい。

第三講

〔模範解答〕

一

問一　（一）奈㆔人有㆓図㆑国者㆒何

（二）乗っ取ろうとする者がいたらどうするのか（十九字）

問二　エ　**問三**　ウ　**問四**　イ

二

（一）　エ　**（二）**　a　ここにおいて　b　いづ〔ず〕くんぞえんや

（三）　氷・客　**（四）**　あによろしくときをうしなふ〔う〕べけん（や）

（五）　君に仕えたいと人々が思っている時期を逃さずに、彼らを用いよ。（三十字）

三

問一　エ　**問二**　第3句と第4句、第5句と第6句

問三　まさにまくをかかぐべし

問四　河川の上に輝く月の光は窓から射しこんで、灯の代わりになろうとしている

問五　イ　**問六**　雁・鶴

問七　雖㆑モ乏㆓シト声格㆒ニ、首尾匀称、足㆑ル称㆓スルニ合作㆒ト。

問八　紫式部

〔現代語訳〕

一

昔（斉の国の大臣の）田成子は海へ出かけこの海を気に入った。臣下の者たちに命令を伝えて言うことには、「帰ると言う者は死ぬことになるだろう」〔＝国に帰ろうと言う者は死刑に処す〕と。顔涿聚が言うことには、「主君は海に出掛けこの海がお気に召したようですが、（留守中に）国を乗っ取ろうとする者がいたらどうするのか、主君がこれをお気に召したとしても、どうして楽しむことができましょうか、いや、できない」と。田成子が言うことには、「私は命令を出して帰ると言う者は死ぬだろうと言った、今おまえは私の命令に背いた」と。矛を手に取り今にも顔涿聚を殺そうとした。顔涿聚が言うことには、「今主君が私を殺してこれ〔＝暴君に諫言して殺された忠心〕を三人〔＝ここでは、暴君の桀・紂に諫言して殺された関竜逢と比干と、今から殺される自分のこと〕にしてもかまいません、私が申し上げたのは国のためで、自分の身のためではない」と。（顔涿聚は）首を差し伸べて詰め寄り言うことには、「主君よ、この首を斬ってください」と。主君〔＝田成子〕は矛を置いて車の支度をさせて帰った。三日が過ぎ、田成子を（国に）入れまいと計画した者がいたことを聞いた。田成子が最終的に斉の国の実権を掌握できた理由は、顔涿聚の力である。

二

君主さまに限って蒯の人が泣いた話を聞いていないのですか。昔蒯の人が商売をして氷を市場で売っていた。客に熱病に苦しむ者がいてこれを買おうとした。蒯の人は自分でいまこそちょうどいい売り時だと思って、数倍の利益を客に求めようとした。客はそこで怒って去った。まもなくその氷も解け出した。そのため蒯の人は（商売を）続けようとしてもそのうえ氷も手に入らず、二つを一緒に失って、自分から泣いて去った。今君主さまは高い位に就いて天下を治めています。天下の士は皆君主さまに仕えたいと思っています。これもまた君主さまが氷を売る時であり、士は氷を買う時です。利益があって一致している。どうして時期を逃してよいでしょうか、いや、よくない。もし君主さまが頑強に自分で迷いためらって氷が解け出すことになったら、君主さまがもう口を開いても〔＝士を求めても〕、そのことが実現できましょうか、いや、できない。どうかすこしこれ〔＝人々が君主さまに仕えたいと言っているこの時期を逃さず、彼らを登用すること〕をお考えください。蒯の人の

過ちを犯してはいけない。

三

　五品の位階である為時が、玉井にある別荘を題にして詠んだ七言律詩、
玉井の名声は、世の中で広く称えられている。
松の柱は碧岩の角を押さえるように立てた。
山の雲が家の周りに垂れこめて、（その様子は）垂れ幕を掲げているようだ。
河川の上に輝く月の光が窓から射しこんで、灯の代わりになろうとしている。
梅の花が寒々としたときに開いて、朝（それを）雪かと見て、
水音がかすかにもしなくなり、夜（川面が）凍ったのを知る。
池のほとりに一体何が訪れてくるのだろう。
雁は来客となり、鶴は（私の）友となる。
　格調に乏しいといっても、最初から最後までうまく照応して、合格に価する作品だと評価するに十分である。為時の娘の紫式部は『源氏物語』を著したことによって世の中で称賛されている。